中　学　校

令和３年度

# 教育研究員研究報告書

# 特別活動

東京都教育委員会

目　次

Ⅰ　研究主題設定の理由 ･････････････････････････････････ 1

Ⅱ　研 究 の 視 点 ･････････････････････････････････････ 1

Ⅲ　研 究 構 想 図 ･････････････････････････････････････ 2

Ⅳ　研 究 の 方 法 ･････････････････････････････････････ 3

Ⅴ　実践研究の概要 ･････････････････････････････････････ 6

Ⅵ　成 果 の 検 証 ･････････････････････････････････････ 14

Ⅶ　研 究 の 成 果 ･････････････････････････････････････ 15

Ⅷ　研 究 の 課 題 ･････････････････････････････････････ 16

# 研究主題
# 個々の意見を生かす取組により、
# 目標達成に向けた自発的な行動を生み出す学級活動の工夫

～一人１台の学習者用端末を活用した話合い活動を通して～

## Ⅰ　研究主題設定の理由

中学校学習指導要領特別活動の目標には、「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決すること」を通して、生徒の資質・能力を育成することが示されている。その資質・能力は、中学校学習指導要領解説特別活動編において「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点で整理され、それらを育む学習過程も重要な意味をもつ。

本部会では課題設定に当たり、特別活動の資質・能力の実態を把握するため、まず、これら三つの視点を踏まえたアンケートを作成し、７月に所属校生徒を対象に実施した。アンケートの結果、「学級の課題に意識を向け、その解決のために、話合い活動に参加することで主体的に解決しようとすること」が苦手な生徒の割合が多いということが分かった。

この項目は、三つの視点のうち、「社会参画」に係る内容である。「社会参画」については、学習指導要領の前文に「社会の創り手」の文言が明記されたことを踏まえ、「社会参画」の視点を意識した指導が重要であると考えた。先のアンケート結果を基に、生徒の実態を分析すると、当該学校の生徒は社会参画意識が低いということが明らかになった。

以上のことから、研究主題は社会参画意識を高めることに視点を当てるものとして設定することとした。このことについて中学校学習指導要領解説特別活動編「社会参画」の視点では、「社会参画のために必要な資質・能力は、集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれるものと考えられる」と示されており、社会参画意識を高めるには、学級活動において、生徒が自発的な活動を通して、集団に関与しながら主体的に課題を解決することができるような指導の工夫が必要であると考えた。そのため、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする「自発的、自治的な活動」の「自発的」という部分に着目して研究を行うこととした。また、「自発的」な活動を生み出す素地として「自己有用感」の涵養が必要であると考えた。なぜなら、人の役に立った、人から感謝されたという経験の総体が活動意欲に昇華し、自発的な活動を生み出すと考えたからである。そこで、本研究においては、特別活動の「学級活動」における「学級や学校における生活づくりへの参画」において、人の役に立った、人から感謝されたという「自己有用感」を育み、自発的に学級の目標を達成していく意欲を高める指導の工夫により話合い活動を実施することで、個々の社会参画意識の醸成を目指した。さらに、一人１台の学習用端末を活用した個々の意見を生かす話合い活動が有効であると考え、本研究主題を設定した。

## Ⅱ　研究の視点

「自発的な行動を生み出す学級活動」を展開するためには、学級活動における諸課題を自らの課題として捉え、改善策等を話し合うための工夫を行うことが必要であると考え、以下の２点を研究の視点と整理した。また、成果はアンケートを実施し、その変容を分析した。

### １　事前活動を含めた指導計画の工夫

学級活動において、話合い活動の目的や必要性、さらには合意形成の図り方について、学級委員を中心とする学級のリーダーに対する事前の指導を含めた一連の活動を行った。そうすることでリーダーが自信をもって活動することができるとともに、自己有用感が高まり、自発的な行動を生み出すことができると考えた。

### ２　一人１台の学習者用端末の活用の工夫

学級活動において、集団への参画意識を高めるため一人１台の学習用端末を活用することで、学級生徒全員の意見や考えを共有するとともに、合意形成の場面において、少数の意見を生かす話合い活動を実施することにより、個々の考えが深まったり、学級活動に参加できる生徒が増えたりすると考えた。

## Ⅲ　研究構想図

研究の背景

| | | |
|---|---|---|
| 中学校学習指導要領特別活動編<br>第５章第１「目標」<br>「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決すること」を通して、生徒の資質・能力を育成すること | 特別活動編の第２章　第１節　特別活動の目標（１）②「社会参画」<br>社会参画のために必要な資質・能力は、集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれるものと考えられる | 生徒の実態<br>・学級の課題に意識を向け、その解決のために、話合い活動を通して主体的に解決しようとすることが苦手<br>・他者の意見や考えを認めることはできるが自分の考えを主張することが苦手 |

目指す生徒像

・集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとする生徒
・集団の中で、人間関係を自主的、実践的によりよいものへと形成できる生徒
・集団の中で、現在及び将来の自己の生活の課題を発見しよりよく改善できる生徒

研究主題

個々の意見を生かす取組により、
目標達成に向けた自発的な行動を生み出す学級活動の工夫
～一人１台の学習者用端末を活用した話合い活動を通して～

研究仮説

学級活動において、全員の考えや実践を一人１台の学習者用端末の活用によって共有し、誰もが話合い活動に関わることで、自己有用感や目標達成への意欲が向上し、個々の社会参画意識を高めることができるだろう。

研究の方法と内容

○基礎研究
・「中学校学習指導要領特別活動」から改訂の趣旨及び要点の確認
・「中学校学習指導要領解説特別活動編」から必要とされている資質・能力の把握
○調査研究
・「平成 31 年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）」を基に作成したアンケート
・学級活動における実態を把握するための調査と分析「学級におけるアンケート」

実践研究

・自発的な話合い活動を実施するための事前活動を含めた指導計画の作成
・集団への参画意識を高めるための一人１台の学習者用端末を活用した話合い活動の実践と検証

【本研究における指導過程のモデル】

事前活動
↓
導入
↓
展開
↓
まとめ
↓
振り返り

工夫①　事前活動の充実
・「話合い活動の手引き」等を作成し、事前活動として学級委員や班長に話合い活動の進め方を指導することで、円滑な合意形成を図り、自己有用感を高めるための一助とする。

工夫②　一人１台の学習者用端末の活用の工夫
・全員の意見をその場で即時に共有し、少数意見も取り上げられるようにする。発言の苦手な生徒でも意見を発信しやすくすることで、全員が集団へ関与できるようにする。

## Ⅳ　研究方法

自発的な行動を生み出し、社会参画意識を高めるためには、これまでの学校や学級における活動を振り返ることで、生徒一人一人が課題を自ら課題として捉えることができる具体的な指導計画を立てる必要があると考えた。また、授業において、一人１台の学習者用端末を活用することで一人一人の意見を生かした合意形成を図ることにより、自発的に課題解決に取り組もうとする意欲をもたせるような授業を実施する必要があると考えた。それらを踏まえ、以下の方法で研究を行った。

### １　文献・資料よる研究

○　中学校学習指導要領　特別活動（平成 29 年３月）
○　中学校学習指導要領解説　特別活動編（平成 29 年７月）
○　平成 31 年度全国学力・学習状況調査（文部科学省）
○　「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校　特別活動】（国立教育政策研究所　令和２年６月）

### ２　指導方法の工夫

(1)　事前活動を含めた指導計画の工夫

「話合い活動の手引き」やワークシートを作成し、事前に学級委員や班長に指導することで、円滑な合意形成を図ろうとした。また、授業のみならず学級活動全体の見通しをもたせ、授業中における活動の方法や学級内における日々の振り返りの方法等を確認することで、自信をもって活動できるようにした。さらに、班長に議題を事前に知らせておくことで、より具体的な話合いができるよう工夫した。

(2)　一人１台の学習者用端末の活用の工夫

一人１台の学習者用端末の活用によって、即時的に全員の意見を共有し、少数意見も取り上げられる工夫をした。また、発言が苦手な生徒でも意見を発信し、集団へ関与できるように工夫した。

### ３　検証授業

学級活動の内容「(1) 学級や学校における生活づくりへの参画　ア　」に基づく検証授業を実施した。第１回の検証授業の実施を基に、「問題の発見・確認」、「解決方法等の話合い」、「解決の方法の決定」、「決めたことの実践」、「振り返り」、「次の課題解決へ」というＰＤＣＡサイクルについて再度検証を行い、集団における自発的な活動を促す「一連の活動」を構築した。続く第２回以降の検証授業において、個々の意見を生かす取組による目標達成に向けた自発的な行動を生み出す学級活動の工夫について実践研究を行った。

### ４　成果検証

学級の実態を把握するために、「全国学力・学習状況調査」の質問項目を基に作成した「学校生活に関するアンケート」（表１）と平成 25 年度から平成 31 年度までの東京都教育研究員が開発した「学級活動におけるアンケート」（表２）を検証授業の前後（７月、11 月）に実施した。また、検証授業の効果の検証のために、これらのアンケートを、検証授業を行う学級に実施した。検証授業を行った学級と平成 31 年度全国学力・学習状況調査、平成 31 年度に東京都教育研究員が行ったアンケートの回答結果を比較し、成果を検証した。また検証授業前に調査したアンケートの結果は、検証授業を行う際に、学級の実態を把握する資料として活用した。

表１　学校生活に関するアンケート

（１）次のことは、あなたにどれくらい当てはまりますか。当てはまるものを一つ選んでください。

４：当てはまる　３：どちらかと言えば当てはまる　２：どちらかと言えば当てはまらない　１：当てはまらない

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ①学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ②あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ③学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ④人の役に立つ人間になりたいと思う。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑤生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑥難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑦人が困っているときには、進んで助けている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

（２）次のことは、あなたの学級ではどのくらいしていますか。当てはまるものを一つ選んでください。

４：している　３：どちらかと言えばしている　２：どちらかと言えばしていない　１：していない

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ⑧互いに話し合い、認め合って楽しい学級にしている。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑨話合い活動で、よい学級や人間関係をつくるため、学級としての目標や方法を決め、実行している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ⑩学級活動で、自分の生活や学習の目標や方法を決め、実行している。 | 4 | 3 | 2 | 1 |

質問は以上です。もう一度、記入漏れがないか確認をしてください。

表２　学級活動におけるアンケート

これは学級活動に関するアンケートです。今の自分の気持ちや行動に近いものを一つ選び、数字に〇を付けてください。

4　あてはまる　3　どちらかといえばあてはまる　2　どちらかといえばあてはまらない　1あてはまらない

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 私は自分のよさを学級活動で生かせている。 | 4　3　2　1 |
| | 自分のよさを書いてください。（自由記述） | |
| 2 | 私は友達のよさを認めて行動している。 | 4　3　2　1 |
| | 気付いた友達のよさを書いてください。（自由記述） | |
| 3 | 私は、学級活動で班員に自分の意見を述べることができる。 | 4　3　2　1 |
| 4 | 私は、学級活動で学級全体に自分の意見を述べることができる。 | 4　3　2　1 |
| 5 | 相手の意見や考えが自分と違っていても、相手の意見や考えを認めることができる。 | 4　3　2　1 |
| 6 | 意見や考えが人と違っていても、自分が正しいと思うことを主張できる。 | 4　3　2　1 |
| 7 | 私は友達や学級のためになることは、自分で見付けて実行している。 | 4　3　2　1 |
| 8 | 学級活動で発言するとき、恥ずかしいと思わない。 | 4　3　2　1 |
| 9 | 私は自分から積極的に学級や班の活動に取り組んでいる。 | 4　3　2　1 |
| 10 | 私は人のために力を尽くしたい。 | 4　3　2　1 |
| 11 | 私は学級のよいところと課題を理解している。 | 4　3　2　1 |
| 12 | 私は学級の課題解決や目標達成に向けて行動したいと思う。 | 4　3　2　1 |
| 13 | 学級集団で活動するときに、人任せにしてしまうことがある。 | 4　3　2　1 |
| 14 | 私は学級の課題解決や目標達成のために行動している。 | 4　3　2　1 |
| 15 | 私は学級の課題解決や目標達成のために仲間と協力して取り組んでいる。 | 4　3　2　1 |
| 16 | 自分の学級は居心地がよい。 | 4　3　2　1 |
| 17 | 私は仲間の意見を生かしながら話合い活動に取り組んでいる。 | 4　3　2　1 |
| 18 | 友達は私のよいところを見付けようとしている。 | 4　3　2　1 |
| 19 | 私は学級活動での自分の役割に責任をもって取り組んでいる。 | 4　3　2　1 |
| 20 | 私は学級活動を行う上での自分の課題を理解している。 | 4　3　2　1 |
| | 理解している自分の課題を書いてください。（自由記述） | |
| 21 | 私は学級活動を通して、自分の成長を感じている。 | 4　3　2　1 |
| | 自分の成長を感じるところを書いてください。（自由記述） | |

アンケート項目は、１・３・４・19・20・21の質問事項が「自己実現」に、２・５・６・16・ 17・18の質問事項が「人間関係形成 」に、７・８・９・10・11・12・13・14・15の質問事項が「社会参画」に、それぞれ関連付けられている。

## Ⅴ　実践研究の概要

### １　基礎研究

(1)　社会参画意識を高めるための事前活動

中学校学習指導要領解説特別活動編（平成 29 年７月）では、「『社会参画』はよりよい学級・学校生活づくりなど、集団や社会に参画し様々な問題を主体的に解決しようとするという視点である。社会参画のために必要な資質・能力は、集団の中において、自発的、自治的な活動を通して、個人が集団へ関与する中で育まれるものと考えられる。学校は一つの小さな社会であると同時に、様々な集団から構成される。学校内の様々な集団における活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の担い手となっていくことにもつながっていく。」と示されている。

生徒同士の社会参画意識の向上のためには、学級目標の達成や学級内の課題解決といった生徒の身近な内容を題材とした話合い活動が有効である。しかし、漠然と話合い活動を行うだけでは、意見が出なかったときなど、話合い活動がうまく進められず十分な協議が行えないまま活動が終わってしまう。また、意見が出たとしても、一部の生徒のみの積極的な発言に終始してしまうことで､発言が苦手な生徒は一部の生徒の意見に同調するだけにとどまり、生徒全員の意見が反映されないまま結論が出てしまう活動となることが考えられる。

そこで、本研究では、自発的な話合い活動を促進し、生徒一人一人の社会参画意識を高めるには、話合い活動の進め方や合意形成の図り方を確認する事前活動を行うことが有効だと考えた。そこで、検証授業においては事前活動を設定し、学級のリーダーとなる生徒を対象に、全員が話合い活動に関われるよう意見の出し方の指導や合意形成に至るまでの意見集約の方法を共有した。一連の活動によって、学級の全員が関われる主体的な話合い活動を目指した。

(2)　話合い活動における一人１台の学習者用端末の利用

一人１台の学習者用端末において協働学習を進めるため、付箋機能等が使える協働学習支援アプリケーションや、アンケート機能を活用した。このことで、即時的に全員の意見を共有したり、少数意見を取り上げたりすることが可能となり、誰もが話合い活動に参加し集団へ関与しながら、合意形成を図ることができるようにした。

こうした一人１台の学習者用端末の活用によって、より短時間で生徒全員の意見や考えを聞くことが可能になる。また、話合い活動において、意見を発言することが苦手な生徒や、自分の意見が他者に否定的に受け取られることを恐れて発言しづらいと感じる生徒にとって、発言しやすい環境となる効果が期待できる。一人１台の学習者用端末の機能によって誰もが話合い活動に参加できることや、一人一人の意思を生かした合意形成を図ることにより、生徒全員の主体的に課題を解決しようとする意欲や社会参画意識の向上を目指した。そして、検証授業後に、集団への参画意識の向上や生徒一人一人の行動の変化による自己有用感の高まりを生み出す効果を期待した。

### ２　調査研究

「全国学力･学習状況調査」の質問項目からの抜粋による「学校生活に関するアンケート」と平成 25 年度から平成 31 年度までの東京都教育研究員が開発した「学級活動におけるアンケート」を各研究員の所属校において実施し、実態把握を行った。

### ３　検証授業の進め方

(1)　題材「学級目標の達成に向けた検証と行動目標の作成」

(2)　題材設定の理由

９月～11 月の年度の折り返しの時期に、生徒が自身の所属する学級において、学級目標の達成に向け、課題の発見や解決のための自発的な話合い活動を特別活動の授業内で行うことを通して、「社会参画」意識の向上を図ることを目指した。生徒同士が、自発的な話合い活動を実施するための工夫として、事前活動を計画し実施した。事前活動では、学級委員を中心

とする学級のリーダーを対象に学級の課題の把握を行う場面を設定し、学級における課題を絞り込むための方策や、合意形成の際に話合いが行き詰まった時の解決策、多数決で合意形成する際の少数意見の見逃しを防ぐ方策などの合意形成の図り方の確認をした。また、検証授業では、一人１台の学習者用端末で、生徒全員の意見の集約や意思の確認が即時的にできる機能を活用する場面を設定した。

(3)　学習過程のモデル図

【研究仮説】
　学級活動において、全員の考えや実践を一人１台の学習者用端末の活用によって共有し、誰もが話合い活動に関わることで、自己有用感や目標達成への意欲が向上し、個々の社会参画意識を高めることができるだろう。

| ①事前活動 → | ②検証授業 → | ③個人目標達成へ向けての行動 → | 目標の達成 |
|---|---|---|---|
| ・学級委員や班長による学級課題の把握 | ・学級全体における合意形成、行動目標の設定 | ・個人目標を達成するための行動の実践と振り返り | 自己有用感、目標達成意欲の向上 ↓ 社会参画意識が高まる |
| ・話合い活動における合意形成の図り方の共有 | ・一人１台の学習者用端末を活用した生徒全員の意見の共有 | ・個々の活動実践の共有<br>・振り返りの実施 | |

(4)　評価規準

| よりよい生活を築くための知識・技能<br>【知識・技能】 | 集団や社会の形成者としての思考・判断・表現<br>【思考・判断・表現】 | 主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度<br>【主体的態度】 |
|---|---|---|
| 学級や学校の生活上の諸問題を話し合って解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解している。合意形成のための手順や活動の方法を身に付けている。 | 学級や学校生活をよりよくするための課題を見いだしている。課題解決に向け、話合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践している。 | 学級や学校における人間関係を形成し、見通しをもったり振り返ったりしながら、他者と協働して日常生活の向上を図ろうとしている。 |

(5)　指導計画

| 時期 | 議題 | 活動内容 |
|---|---|---|
| 10月 | ◇検証授業【第１回】<br>「学級の課題の解決策を話し合い、学級目標を実現するための個人目標を決めよう」 | ・学級の課題の解決策を考え、他者との意見交換を通して合意形成を図る。 |
| 11月 | ◇検証授業【第２回】<br>「学級目標を達成するための行動目標をリニューアルしよう」 | ・新しい行動目標を検討する中で、異なる意見との共通点や相違点を見いだし、合意形成を図る。 |
| 11月 | ◇検証授業【第３回】<br>「学級の課題の解決策を話し合い、課題解決のための個人目標を決めよう」 | ・学級の課題に対する解決策を話し合い、個人目標を設定し、主体的に学級生活を見直し、よりよくしていく。 |

(6)　検証授業

【第１回】

ア　本時の活動のテーマ

「学級の課題の解決策を話し合い、学級目標を実現するための個人目標を決めよう」

（内容項目：学級活動（１）学級や学校における生活づくりへの参画　ア）

イ　本時のねらい

・学級の課題の解決策を基に目標を実現するための個人目標を決定し、主体的に学級生活をよりよくしようとする態度を育てる。

・一人１台の学習者用端末を活用し、学級活動に意欲的に取り組む態度を育てる。

ウ　本時の展開

| | 生徒の活動 | ○目指す生徒の姿〈評価方法〉<br>・指導上の留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br>５分 | １　本時の活動について確認する。<br>・学級委員の説明を聞き、題材設定の目的や本時の進め方について確認する。 | ・本時のねらいを黒板に掲示し、確実に捉えさせる。 |
| 展開<br>35 分 | ２　振り返りアンケートを分類・分析する<br>・事前アンケートの結果を基に班長会で考えた学級の課題を説明し、提示する。<br>３　学級課題を各班に一つ提示し、解決策を考える。<br>（学級の課題　例）<br>意見を出しやすい雰囲気をつくるためには<br>・個人で考えた解決策を、情報共有アプリケーションに入力する。<br>・各班は、班の意見を集約し解決策を作成する。≪合意形成≫<br><br>４　作成した解決策を班長が全体に向けて発表する。<br>５　解決策を基に学級目標を実現するために個人で実践する目標を決める。<br>・学級目標を実現するために２学期を通して取り組むことを決定する。<br>・目標を情報共有アプリケーションに投稿し、意思表示をする。<br>６　学級全員の目標を情報共有アプリケーション上で確認し、反応をする。 | ・アンケートの結果を黒板に投影し、学級委員から説明させる。<br><br>・意見集約の際には「合意形成お助けシート」を活用し、多数決ではなく、より多くの生徒の意見を用いて解決策を作成することを意識させる。<br>○合意形成の手順を理解し、実行して、解決策を決定することができる。<br>【知識・技能】〈観察・情報共有アプリケーション〉<br><br>・情報共有アプリケーション上で策定した解決策を参考にして目標を考えることを促す。<br><br>・共感したり、応援したいと思えたりした意見に評価を加えることを促す。 |
| まとめ<br>10 分 | ７　学級を代表して学級委員が「学級目標を実現するために２学期を通して取り組むこと」を発表する。<br>８　情報共有アプリケーション上の、日直日誌において日々の振り返りを行うことを理解する。<br>９　ワークシートを記入する。 | ○取組の意義を理解し、前向きに学級目標を実現していこうとしている。<br>【主体的態度】〈観察・ワークシート〉 |

エ　検証授業を終えて

(ｱ)　生徒の様子

・本授業は、新型コロナウイルス感染症対策の観点から対面しての話合い活動が制限された中で行った。その為対話による話合い活動ではなく、一人１台の学習者用端末を活用し、個々の活動として情報共有アプリケーションに意見を記入することで、話合い活動を行った。

・授業後のアンケートの結果では、「学級目標を達成しようとする意欲が高まりましたか」との問いに対して 30 人の生徒全員が「とても高まった」、「高まった」と回答した。また、ワークシートには「このクラスをもっとよくするために、学級委員や班長に全てを任せるのではなく、自分からもっと行動していきたいと思います。」、「一人一人の意見が分かり、自分の意見も全員に見てもらえてよかった。自分の目標をクリアできるように努力したい。」などの記述がみられた。アンケートからは、学級目標を達成しようとする意欲が高まり、自発的な行動を生み出すきっかけになったと考えられる。

(ｲ)　指導の工夫

・本授業で行う活動内容を精査し焦点化した。このことにより、授業において学級の課題の解決策を考える班活動の時間が十分に確保でき、個々の意見を見ることができるようになった。具体的には、合意形成時のポイントを「合意形成お助けシート」にまとめ、少数意見にも留意した上で、合意形成を行うことを事前に班長へ指導した。それにより、全ての班において効果的に合意形成を図ることができ、少数意見を踏まえた解決策を作成することができた。

・本授業では、班の話合いや学級全体への個人目標を発表するためのツールとして、プレゼンテーションアプリケーションを使用した。付箋機能を活用し、出席した生徒全員が意見を入力、投稿することができた。また、ワークシートには「前よりもタブレットを利用する機会が増えたことによって、自分の考えを丁寧に伝えることができるようになり、それと同時にいつでも仲間の意見しっかり読むことができてよいと思いました。」などの記述があった。こうしたことから、生徒にとって一人１台の学習者用端末の活用により、学級という社会に参画する意識を醸成することができるとともに、多様な意見を共有することから、自分の意見を深めることができるという一定程度の効果があると考えられる。

【第２回】

ア　本時の活動のテーマ

「学級目標を達成するための行動目標をリニューアルしよう」

（内容項目：学級活動（１）学級や学校にける生活づくりへの参画　ア）

イ　本時のねらい

話合いの中で、自分の考えを表明するとともに、異なる意見との共通点や、相違点を見いだし、合意形成を図ろうとする態度を育てる。

ウ　本時の展開

| | 生徒の活動 | ○目指す生徒の姿〈評価方法〉<br>・指導上の留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br>３分 | 1　本時の議題と活動の流れを確認する。<br><br>2　学級委員から説明を聞き、今後の学級の在り方についての「思い」を聞く。 | ・本時の議題と活動の流れを説明し、授業の見通しをもたせる。<br>・事前指導で学級委員に内容を確認する。 |
| 展開<br>40分 | 3　学級目標を達成するための行動目標の中で変更したい項目を個人で挙げる。<br>4　学級目標を達成するための新たな行動目標を個人で考える。<br><br>5　班での役割を決める。<br><br>6　個人の意見で共通する部分を班で話し合い、共通項目にラベリングをする。<br>7　他の班の意見も参考にして、班の案を再検討し、班の案を決定する。<br><br><br><br><br><br><br><br>8　各班の案を発表する。<br><br><br><br>9　最もよいと思う案に投票する。また、その理由も考える。<br><br>10　学級全員の意見を知る。<br><br>11　少数派の意見を聞く。 | ・一人１台の学習者用端末のアンケートアプリケーションで投票させる。<br><br>・情報共有アプリケーションで新たな行動目標をできるだけ多く書かせる。その際、生徒手帳等、学校生活のきまりを参考にするように指示する。<br>・司会（班長）、記入係、発表係を話し合って決めるように指示する。<br><br>・個人で他の班の意見を読む時間（３分）を設ける。<br>○話合いの中で、自分の考えを表明するとともに、異なる意見との共通点や、相違点を見いだし、合意形成を図ろうとしている。<br>【思考・判断・表現】〈観察・ワークシート〉<br>・記入係に対し、まとまった意見をミニホワイトボードに記入し、黒板に貼るように指示する。<br>・発表係に対し、教卓の前で発表するように指示する。その際、グループでの話合いの経緯についても言及するように指示する。<br>・アンケートアプリケーションで投票させる。投票する際は、氏名と理由も記入させる。<br>・一人１台の学習者用端末を用い、全員の意見を提示し、見る時間（３分）を設ける。<br>・少数意見を出した生徒を指名し、考えた理由を発表させる。<br>・少数派の意見も参考に学級委員に新しい行動目標を考えさせるとともに、後日、考えた行動目標と、その理由を学級全員に共有するよう指示する。また、最終決定を学級委員に委ねることについて学級全員の合意を得る。 |
| まとめ<br>７分 | 12　学級委員から本時の活動の感想を聞く。 | ・学級委員に本時の感想を発表させる。 |

| | | |
|---|---|---|
| | 13　感想をワークシートに記入する。<br><br>14　担任からの本時の活動に対する思いを聞く。 | ・学級委員の感想を聞いて思ったことや考えたことを振り返り、自分自身の感想を書くように指示する。<br>・生徒の思いを大切にしながら、目指す生徒の姿について意識することができるように話す。 |

エ　検証授業を終えて

(ｱ)　生徒の様子

・本授業の翌日のアンケート結果では、「昨日の学級活動の話合いは充実していましたか」に対して、「充実していた」と本時の活動に参加した全ての生徒が回答した。また、授業同日の生徒の連絡帳にも、「同じグループの人と意見を共有できてよかった」や「新しい行動目標について、友達の意見を知ることで、新しい視点から考えることができてよかった」などの記述が見られた。このことから、本授業において、個々の意見が生かされる取組として一定の効果があったと推察される。さらに、「昨日の学級活動の話合いで自分の意見が役に立ちましたか」とのアンケートに対して、「役に立った」と回答した生徒は 31 人中 26 人（83.9%）であった。この結果から、自分の考えがグループの意見に反映される経験が自己有用感の向上の一助になったと考えられる。

(ｲ)　指導の工夫

・班での話合い活動を円滑に進めるための工夫として班長と学級委員を対象として事前活動を行った際、班で合意形成をするための方法を、生徒に考えさせた。話合い活動の中での合意形成が行き詰まるあらゆるパターンを想定して、それぞれの場面に応じた解決方法について検討させたことで、授業では円滑な話合い活動を行うことができた。

・授業の導入部分において、生徒の自発的な取組を促す工夫として、学級委員から「思い」を語らせる場面を設定した。事前活動において、学校行事の事後アンケートの集計結果を生徒に示し、この結果から学級の現状と課題を考察させた。そして、その考察に対する学級委員の「思い」を踏まえて話合いを進めることで、生徒一人一人が学級委員の「思い」を受け、授業でなぜ行動目標を考えることが必要なのかということを理解させることができた。

・授業内でアンケート調査を行う際に、一人１台の学習者用端末を活用し、即時に結果を提示するようにした。一人１台の学習者用端末の利点である「即時性」を生かすことで、思考を中断させることなく、多様な考えを自分の考えに取り込ませることができた。また、多数派の意見のみならず、少数派の意見を取り上げることができ、生徒の話合い活動への参加意識を高めることができた。多くの生徒に自分の意見が認められる体験を積ませることで、社会参画意識向上の一助とすることができた。

【第３回】

ア　本時の活動のテーマ

「学級の課題の解決策を話し合い、課題解決のための個人目標を決めよう」

（内容項目：学級活動（１）学級や学校における生活づくりへの参画　ア）

イ　本時のねらい

・学級の課題の解決策をもとに、学級目標を実現するための個人目標を決定し、主体的に学級生活をよりよくしようとする態度を育てる。

・一人１台の学習者用端末を活用し、学級活動に意欲的に取り組む態度を育てる。

・多様な意見を踏まえ合意形成を図る姿勢を育む。

ウ　本時の展開

| | 生徒の活動 | ○目指す生徒の姿〔評価の方法〕<br>・指導上の留意点 |
|---|---|---|
| 導入<br>５分 | １　本時の活動について確認する。<br>・題材設定の目的や本時の進め方について知る。<br><br>２　前時の振り返りを行う。<br>・各班長が前時に設定した学級の課題を確認し、本時の話し合う内容を確認する。 | ・本時の流れと前時の内容をスクリーンに投影する。 |
| 展開<br>35 分 | ３　班で意見を交流する。<br>・前時に出した課題と解決案に対して具体的な行動目標になるよう班で意見を出す。<br><br>４　各班で合意形成して具体的な行動目標を決定する。<br><br>予想される行動目標の例<br>・人が不快にならない言葉を遣う。<br>・授業の準備をしてから休み時間を過ごす。<br><br>５　各班長より行動目標を発表する。 | ・司会と書記の役割を分担させ、話合い活動が円滑に進むように指導する。<br><br>・班の全員の意見を用いて合意形成するように促す。<br>○合意形成お助けシートを活用し、合意形成を行う手順を理解し、実行して、解決策を決定することができる。<br>【知識・技能】〈観察・ワークシート〉<br>・机間指導により、積極的に意見するように促す。<br>・一人１台の学習者用端末を用いて、各端末に班ごとに行動目標を投影する。 |
| まとめ<br>10 分 | ６　個人の目標を設定する。<br>・各班の意見を聞いた上で、掲示用の個人目標を記入し提出する。<br><br>７　担任の話を聞く。<br>８　個人で振り返りを行う。 | ・班ごとの解決策を参考にして目標を考えるよう促す。<br><br>○取組の意義を理解し、前向きに個人目標を実現していこうとしている。<br>【主体的態度】〈観察・ワークシート〉<br>・本時の活動全体を振り返り、感想を記入するように言葉掛けをする。 |

エ　資料等

【合意形成お助けシート】

**☻合意形成お助けシート☻**

**その1**

**班の全員から意見をもらおう！**

**→意見を発表できる人から、〇〇さんはどうですかと順番に発言を促しましょう。**

**その2**

**意見を聞いたらまずは感謝を伝えよう！**

**→たとえ考えが違っても、意見を聞いたら、まず、「ありがとうございます」と一言返しましょう。**

**その3**

**意見だけではなく、そう考えた理由も聞きましょう！**

**→なぜそう考えたのか具体的に理由を聞き出しましょう。**

**その4**

**なるべく全員の意見を取り入れよう！**

**→多数決だけで決めずに、少数意見の中からも生かせる部分がないか再度確認しましょう。**

オ　検証授業を終えて

(ｱ)　生徒の様子

・　生徒の感想には「色々な意見が聞け、少数意見にも注目できた。」、「それぞれが課題について積極的に行動ができる案を出せてよかった。」、「クラスの課題について考えることができた。意識して生活したい。」などの記述が見られた。そのことから、全員の意見を聞いたことで、課題解決に向けて一人一人が当事者意識をもって考えることができていたと推察される。また、個人目標には「友達を思いやるような言葉遣いをできるようにする。」などの具体的な行動目標が多く見られ、行動意識が高まったと考えられる。

(ｲ)　指導の工夫

・班長と学級委員を対象として事前活動を実施した。合意形成の方法を共有し、少数意見をどのように取り扱うかなどについて生徒から意見を出させ、自発的な話合いが行われるようにした。

・学級の課題について考えさせるに当たり、一人１台の学習者用端末を活用した。学習者用端末における情報共有アプリケーションを使うことで､全員の意見共有が容易となり、各班で解決したい課題の参考となる意見を集めることが容易となった。

・第１時の事後活動として、それぞれの班の解決案に対し意見を出させたうえで、より具体的な案になるように第２時の話合いの内容を焦点化したことで、第１時の課題に対する解決案をより明確なものとすることができた。

## Ⅵ　成果の検証

### １　社会参画意識に関する個人の意識の変容

７月と 11 月の２回、特別活動において育成すべき資質・能力である「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点を踏まえた「学校生活に関するアンケート」と「学級活動におけるアンケート」（Ｐ４表１及びＰ５表２参照）を所属校で実施した。所属校における検証授業を行った学級の回答と平成 31 年度全国学力・学習状況調査、平成 31 年度に東京都教育研究員が行ったアンケートの回答結果を比較した。比較は、各アンケートの質問の回答を１点～４点で点数化し、それぞれの平均値を算出することで行い、生徒の意識の変容を調査した。

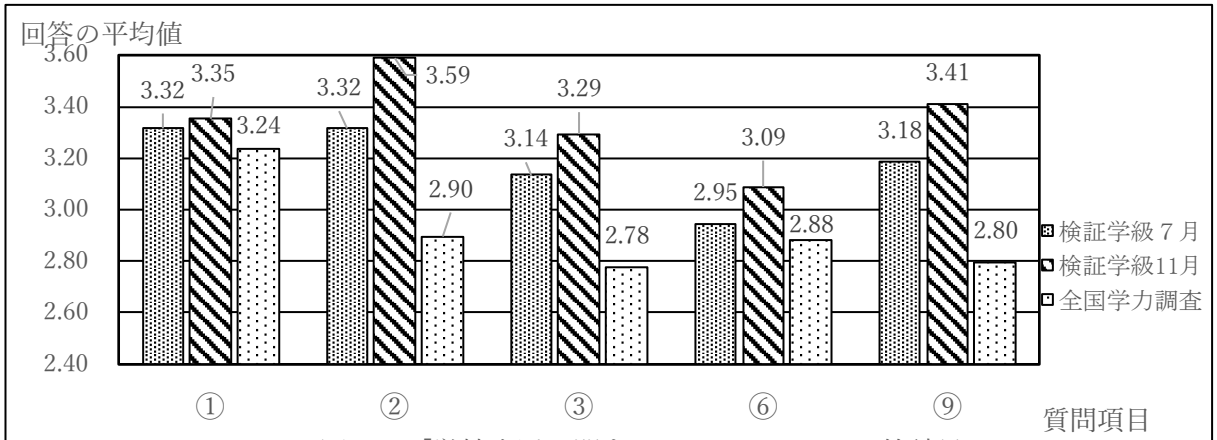


図１　「学校生活に関するアンケート」の回答結果

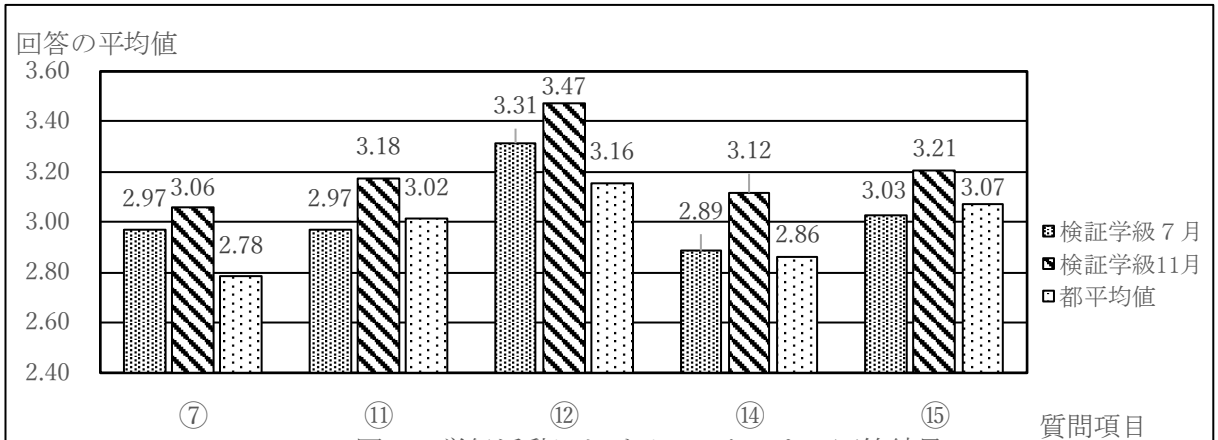


図２　学級活動におけるアンケートの回答結果

図１より「学校生活に関するアンケート」の質問項目において「②　あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思う。」、「③　学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思う。」、「⑨　話合い活動で、よい学級や人間関係をつくるため、学級としての目標や方法を決め、実行している。」の３項目において検証授業を行った学級の回答を比較すると、11 月のアンケート結果の平均値が７月のアンケート結果の平均値を 0.04～0.27 ポイント上回っていた。

また、上記の３項目について検証授業を行った学級の 11 月のアンケート結果の平均値が、平成 31 年度全国学力・学習状況調査の回答結果の平均値と比べて 0.51～0.69 ポイント上回っていた。

図２より「学級活動におけるアンケート」の質問項目において、「⑦　私は友達や学級のためになることは、自分で見付けて実行している。」、「⑪　私は学級のよいところと課題を理解している。」、「⑫　私は学級の課題解決や目標達成に向けて行動したいと思う。」、「⑭　私は学級の課題解決や目標達成のために行動している。」、「⑮　私は学級の課題解決や目標達成のために仲間と協力して取り組んでいる。」の「社会参画」に関する５項目において、検証授業を行った学級で 11 月のアンケート結果の平均値が、７月のアンケート結果の平均値より 0.09～0.23 ポイント上回っていた。検証授業を行った学級のアンケートの 11 月の結果と平成 31 年度に東京都教育研究員が行ったアンケートの結果を比較すると、上記の５項目において、検証授業を行った学級の平均値の方が平成 31 年度に東京都教育研究員が行ったアンケート結果の平均値より 0.14～0.31 ポイント上回る結果となった。

これらの結果から、事前活動や検証授業を経て、生徒がより良い学級のために学級のよいところに気付くことができるとともに、学級内の課題についても敏感に共有することができる生徒が増えたことが分かる。また、検証授業を通して、主体的に話合い活動に参加し、解決しようとすることに抵抗を感じている生徒が減り、学級目標の達成や学級の課題解決に向かう行動がとれる生徒が増えた。一人１台の学習者用端末を用いた話合い活動を行うことで、生徒全員が学級の目標や課題に対する意見を出しやすくすることができたとともに、個々の意見の共有が容易になったことで、一人一人の考えが深まり、生徒自身が取り組むべき内容が明確化され、学級のために自発的に行動できる生徒が増えたことにつながった。さらには、検証授業による取組が生徒の所属集団における課題解決に意欲的に参画する意識を高めたといえる。

### ２　一人１台の学習者用端末を活用した個々の意見を生かす取組の工夫

検証授業を行った学級で 11 月に行ったアンケート結果では、図１の「学校生活に関するアンケート」の「①　学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある。」、「⑥　難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。」の回答の平均値が、７月の回答の平均値や平成 31 年度に東京都教育研究員が行ったアンケート結果の回答の平均値と比べ、0.03～0.21 ポイント上回る結果となった。検証授業で合意形成の過程で出た少数意見にも焦点を当てる場面を意図的に設けたため、意見することが苦手な生徒にとっても話合い活動において自分の意見が取り上げられる場面が増え、自己有用感の向上につながった。また自分の意見が、全体に共有される中で、他者の考えに影響を与えたことを実感することにより、話合い活動や学級集団に対する参画意識を高めることができたと考えられる。

## Ⅶ　研究の成果

### １　社会参画意識を高める話合い活動の進め方ついて

本研究では、自発的な行動を生み出す学級活動を通して社会参画意識を高めることを目指した実践を行った。研究を始めるに当たり社会参画意識を高める学級活動には生徒全員が当事者意識をもって関わることができる話合い活動の工夫が必須であると考えた。そのため、班での話合い活動において司会や記録などの役割を設定することで生徒全員が話合い活動に

関われる指導計画の立案や、事前活動を設定し、話合い活動の目的及び必要性の説明と合意形成の図り方についての確認を行った。

話合い活動の場面では、最初に生徒が個人の意見を述べたうえで、班や学級全体で話合い活動を実施し合意形成を図る。そして、最後に生徒個人が課題に対してどう向き合っていくか再考するという一連の活動の流れを設定し検証授業を行い、有効性を検証した。その結果、課題解決につながる話合い活動が実現し、自分から積極的に友達や学級のために行動することができる生徒や学級の課題の解決のために行動することができる生徒が増えていくなど、一定の効果があった。また話合い活動によって自分たちで決めた目標に向けて努力することが広い意味での社会参画につながった。

### ２　一人１台の学習者用端末による意見共有について

生徒は合意形成を図る上で、安易に多数決を行う傾向がある。少数意見の中には、個々の意識として内在しているものの表出しにくい考えや、目標設定や課題解決のための重要な視点が含まれていることもあるため、多様な意見を生かし、よりよい目標や解決策が考えられるよう少数意見にも焦点を当てる指導を行った。その工夫として行ったのが、一人１台の学習者用端末の即時性を生かした実践である。

話合い活動の途中で、アンケート機能の活用によって出た意見について、多数意見だけでなく少数意見についても取り上げるなど、意図的に着目させる指導の工夫や、一人１台の学習者用端末を活用することで、これまで全体の場で積極的に発言できず、自分の意見に自信がもてなかった生徒たちの意見も積極的に取り上げ発信させる工夫により、多様な意見を生かした話合い活動を実践することができた。この指導により、互いの意見のよさに気付き、相手の意見や考えを認めることができる生徒の育成や、話合い活動に主体的に関わることによる自己有用感の向上につながった。

## Ⅷ　研究の課題

### １　目標達成に向けての生徒の自発的な行動を生み出す指導実践の継続

本研究は、実践の積み重ねとしては短期的な取組である。生徒の社会参画の基盤となる資質・能力を育成するには、発達段階に応じた指導計画の立案や３年間の見通しを立て、系統性をもたせた上で継続的な指導を行う必要がある。また、校内全体の様々な集団における活動においても、自発的、自治的な実践により、社会参画を促す指導が必要である。これらの活動に関わることが、地域や社会に対する参画、持続可能な社会の創り手となっていくことにもつながっていく。

### ２　一人１台の学習者用端末の活用の工夫

本研究では、学級生徒全員の意見や考えの共有とともに、合意形成における、少数の意見を生かす工夫として、一人１台の学習者用端末を活用した。検証授業を実践する中では、話合い活動の議題からかけ離れた内容や極端な内容の少数意見が出た際、合意形成から遠のいてしまうといった場面も見られた。また、一人１台の学習者用端末を用いれば気軽に意見を表明できる利点もあるが、情報モラルの視点における不適切な発言も容易にできてしまう難点もある。社会参画意識と同様に、生徒の情報モラルを高める教育も同時に進めることが一人１台の学習者用端末を効果的に活用する特別活動には必要である。

# 令和３年度　教育研究員名簿

## 中学校・特別活動

| 学　校　名 | 職　名 | 氏　名 |
|---|---|---|
| 中央区立晴海中学校 | 主任教諭 | 松浦史也 |
| 足立区立第十二中学校 | 教諭 | ◎守屋遼太郎 |
| 江戸川区立南葛西中学校 | 教諭 | 五十嵐拓 |
| 小平市立小平第六中学校 | 主任教諭 | 田中博之 |
| 小平市立上水中学校 | 主任教諭 | 山浦龍太郎 |

◎　世話人

〔担当〕東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事　吉森　祐司

令和３年度

# 教育研究員研究報告書
# 中学校・特別活動

令和４年３月

編　　集　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０―６８４９